

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ねむのき		
○保護者評価実施期間	令和8年1月28日		～ 令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○従業者評価実施期間	令和7年12月23日		～ 令和8年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○訪問先施設評価実施期間	令和7年1月28日		～ 令和8年2月20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	4施設	(回答数) 4施設
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童発達支援経験10年以上の保育士が専門性をもって支援にあっている。	・訪問先施設の方針や都合をお伺いしたうえで課題を共有し、専門的支援に必要なツール等取り入れている。支援後は状況の報告と情報共有を行っている。	・引き続き、訪問先施設の方針等を考慮したうえで、必要に応じ専門的支援を取り入れていく。先生方と一緒に取り組み、子どもの育ちを支えていけるよう努める。 ・訪問先施設で、適切な支援ができるよう、各研修等で研鑽を積み、知識・技術の向上に努める。
2	・発達段階の把握と保護者支援	・ねむのきの児童発達支援を利用しているこどもが対象であるケースが多いため、個々の発達段階が把握でき、保育所等集団での課題が抽出しやすい。 ・日頃より保護者の皆様とのやり取りがあるので、支援状況報告や情報共有、要望の確認がスムーズに行える。	・ねむのきの児童発達支援を利用しないこどもが利用する際には、今後とも、聞き取りや報告等、丁寧に行っていく。

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保育所等訪問支援事業の内容周知ができていない。	・保育所等訪問支援事業の認知度が低く、訪問について理解いただけない状況がある。	・訪問先となる施設に事業についてご理解いただけるよう、わかりやすく説明する。こどもの最善の利益のために、適切に支援ができるよう連携を深めていきたい。
2	・訪問先施設との信頼関係の構築が十分でないケースがあった。	・こども本人への支援、家族への支援において、支援機関としてのそれぞれの立場から、取り組むべきことについての共通認識の醸成ができていなかった。	・「子どもの最善の利益」を最優先に、保護者、関係機関の皆様とともに、どう取り組むかを一緒に考え、しっかりと連携して、支援の歩を進めてまいりたい。